

頻度としてはおおむね3年に1回程度の機会になります。現時点で20名程の方の聞き取りに行かせていただきました。調査のタイミングで行くことがなかった事業所に行くことが出来たり、会うことがなかった人や支援者の方々とつながりを持つことができてとてもいい機会になっています。

始めたばかりですが、たくさんのお会いを楽しみに調査を続けていきたいと思っています。

次はあなたのところへ伺いするかもしれません。

この頃のぼらりす



▲ぼらりすコーヒー店

9月15日（祝・月）敬老の日、「エンジョイフェス」へ参加してきました。主催は、西福祉センターですが、市社協も史上初めての試みだったそうです。ここで、コーヒーの販売をしました。定期的にアイス・ホット両方を用意しています。新たな出会いもたくさんあり、当時者の社会参加も含め、このような機会をいただいたことに感謝、感謝です

すっかりと恒例になった10月1日は「コーヒーの日」です。今年は、サスティナブルコーヒーについて学んでいます。実は、コーヒーの世界はいわゆる“SDGs”と非常に深い関係があります。環境に配慮して生産、製造されたコーヒー豆は、「認証コーヒー」として認定されます。“SDGs”に貢献している例として紹介されることが多いです。

10月は、防災ミーティングの月です。ということで31日に開催しました。今回取り上げたテーマは、現在社会問題にもなっている、「ツキノワグマ」や「特殊詐欺」、「リチウムイオン電池」です。それぞれの注意点、留意点を皆さんと学んでいます。

あとりのこと

ようやく過ごしやすい気温になってきました。柿・イチジク・柚子・キウイフルーツ等々いただきました。昼食会では、「厚揚げの柚子あんかけ」を作った

り「柚子の一口餅」を作ってみました。デザートに柿を食べて、みんなで秋の味覚を堪能しています。

あとりのトピックは、麻雀です。3～4人集まれば、すぐに雀荘に早変わり。慣れた手つきで牌（はい）を17コ揃えて二段重ねに揃えます。そこからスタートです。プレイ中はみんな無言の真剣勝負。難しい顔や笑みがこぼれる方、ポーカークフェイスでされる方もいます。勝負がつくと自分の揃えた牌を見せて、「あーここにあったんか」「なんで出さないの」とお互い笑いながら振り返っています。麻雀が始まるとサロンの雰囲気も明るくなり活気が出てきます。コミュニケーションをとりながら楽しめる麻雀、是非皆さま体験してみてください。

ふぁーすとすてっぷの方も、好評で年内予約いっぱい状況です。最近は作業するメンバーも増えて明るく楽しく作業しています。

これまでの活動報告

9月

- 5 奈良市社会福祉協議会から実習生受け入れ
- 8 奈良県障害者福祉連合会議 奈良県への要望について
- 10 MK会「睡眠について」勉強会
- 12 敬老会用商品詰め合わせ納品（ぼらりす）
- 15 エンジョイフェス 参加
- 22 FACE当事者研究
- 30 権利擁護支援推進会議参加

10月

- 1 社協だよりのインタビュー
- 2 第3回全国大会実行委員会
- 4 ほかほか祭参加（主催；NPO法人自立支援ステーションほかほか）
- 8 優先調達推進会議参加
- 10 ひまわり事業所紹介用動画撮影
- 16 全国大会前日準備
- 17～18 きょうされん第48回全国大会in奈良開催（於；奈良県コンベンションセンター）
- 24 令和7年度奈良市障害者虐待防止研修
- 27 FACE当事者研究

11月

- 6～7 FACE研修一泊旅行
- 10 天理大学看護学科看護学生実習受け入れ（R8.2まで継続）
- 28 きょうされん拡大相談・支援部会参加



第81号（2025. 12. 1）TAMTimesより通巻128号
NPO法人ふぁ～ちえ
〒631-0078 奈良市富雄元町2-7-25
SSKビル305・306号
TEL.FAX.0742-55-2301
ホームページアドレス <http://www3.kcn.ne.jp/~face>
メールアドレス atria@kcn.jp

きょうされん第48回全国大会in奈良

2025年10月17・18日、奈良県コンベンションセンターにてきょうされん第48回全国大会in奈良が開催されました。奈良での開催は初めてのことで、大会スローガンは「はじめよう戦後80年から 咲かせようまんまの笑顔～みんなのチカラ奈良の地から～」です。特別シンポジウム、利用者フォーラム、14の分科会、仲間の観光などを企画運営しました。参加者は障害ある人約700人を含む2200人（奈良県内からの参加者は266人で参加目標の150人を大きく上回りました）、ボランティアは約300人でした。全国大会は、仲間と一緒に参加し、学び交流することを前提としています。そこで情報保障がしっかりと行えるよう企画しました。

2022年7月の奈良支部役員会の際、きょうされんビジョン2027を作成する際に全国大会開催を目標として同年8月の支部定例会議に提案、2023年4月の支部総会で開催を決定しました。準備期間3年を要した開催となりました。果たして支部加盟事業所が20ヶ所という小規模な支部で全国大会が出来るのかとの不安もありましたが、2025年5月頃から徐々に頑張ろうとの気運が高まってきたように思います。全国事務局の支援・アドバイスは勿論のこと、全国の各支部からの協賛、近畿北陸ブロックからの厚い協賛・協力、奈良県・奈良市・学校などの方々からの“共につくる”という姿勢に支えられての開催となりました。

特別シンポジウムとして、2024年にノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会の濱住治郎事務局長を講演者としてお招きしました。このシンポジウムのテーマは「被爆・戦後80年 障害のある人と戦争を考

える～人権と平和が花ひらく未来をひきよせるために～」です。きょうされんと奈良県生活協同組合連合会ピースアクションinなら2025との共同企画でもあり、一般公開としました。シンポジウムの登壇者は、中野素子氏（ピースアクションをすすめる会ならコープ名誉理事）・秋保喜美子氏（きょうされん広島県支部事業所利用者）・緒方晴氏（きょうされん長崎支部事業所利用者）でした。

濱住治郎氏は胎内被爆者です。講演では、①父親は写真でしか知らず、戦後80年というが私の中では戦争は終わっていない ②現在世界には12000発の核兵器があり、すぐに発射できるものは4000発ある ③核兵器は絶対悪の凶器であり、広島・長崎の犠牲は仕方ないとする考えは核戦争を許すことになる、など優しい声で淡々と語られたのが印象的でした。

利用者フォーラムは、「まんまの笑顔コンサート」や天理大学協力による「みやびをたのしむ～平和を祈る古来の舞～」(雅楽部)と「ダンスでつながり、心がひらく」(創作ダンス部)を企画しました。雅楽公演では、雅楽と舞を静かに鑑賞し、その後は楽器に触ったり衣装を羽織ったりと、他ではできない貴重な体験ができました。

仲間の観光は、車椅子対応・看護師同乗・なかまのサポート体制もしっかりと考えての企画でした。なら歴史芸術文化村見学と若草



▲大会シンポジウム



▲大会資料集

実施しました。

実現会議では3年半の運動の成果として、精神障害者保健福祉手帳1級、2級所持者の医療費助成について、全国トップクラスとなるすべての診療科における医療費助成を実現しました。

午前中は実現会議の代表だった奥田さんと事務局を担った私、刀根が首長選挙及び市町村議員選挙候補者への公開質問状や、3回にわたりすべての市町村へ要望活動を実施した市町村キャラバン、運動に合わせて開催したシンポジウムや学習会など運動の具体的な運動の内容を報告しました。

午後からはグループワークを行いました。テーマは医療費助成に限らず、自身が暮らす、実践している地域においての課題と、その課題に対しどのように解決を図っていくのかを運動を絡めながら少人数で意見交換をしました。

各グループには分野や背景、実践地域が違う様々な方が参加しており、同じ法や制度に基づいた事業であっても市町村の考え方でその内容や予算が大きく異なることを再確認したという意見が多数出されました。お互いの違いを知り、整理していくところから課題解決は始まります。

運動が終結してから約10年経ち、施設職員として法や制度に則って行う業務の量がとて多くなりました。それに伴い余白の部分が減り、制度外や契約外で当事者や家族とかかわりを持つ時間も減少してきています。同時に支援者同士のつながりも減り、自身の法人や施設の内部での活動を充実させることに精一杯になっている現状があります。

そういった中でも日々の支援の中から当事者や家族の声に耳を傾けて小さな運動や実践を積み重ねていくことが人と人のつながりを増やし、社会を変えていく力になっていきます。

『私達自身が生活者として暮らしやすい社会を実現していきたい』という思いを共有しあえる有意義な分科会を共に作ることができたと感じています。

(刀根)

ふぁーちぇ淡路島の一泊旅行に行きました

ふぁーちぇでは2年に1度、1泊旅行を実施しています。毎回、メンバーと共に行き先から検討し、多数決で選んでいます。今回は熊本旅行でしたが、移動時間がかかったの、「近場でのんびり楽しみたいね」の声もあり淡路島の旅が決まりました。月1

山ドライブ（せいりゅうコース）・世界遺産「法隆寺」参拝と筆づくり体験（びゃっこコース）・キトラ古墳「四神の館」と橿原市昆虫館プラン（すざくコース）・柿の葉寿司づくりと史跡・郡山城散策（げんぶコース）の4コースをそれぞれに楽しんでいただきました。（麻）

全国大会では毎回、地元在即した大会ロゴと大会キャラクターを制作しています。奈良支部でも加盟事業所利用者から募集した作品の中から決定しました。ロゴは開催要綱や資料集などの表紙を飾り、キャラクターは大会Tシャツや様々なグッズに使用しました。閉会式では、ロゴ作成者の式部さん・キャラクター作成の村山さんの表彰も行われ、2人とも晴れやかでした。（麻）

分科会『精神障害のある人への支援』に登壇して

2025年10月17日、18日の二日間、奈良県コンベンションセンターにおいて『きょうされん全国大会in奈良』が開催されました。二日目の分科会『精神障害のある人への支援』は9:30～14:30お昼後休憩を挟んで5時間の長丁場でした。

この分科会では主に『精神障害者の福祉医療を実現する奈良県会議（以下、実現会議）』が行った2012年9月から2016年2月までの当事者、家族、支援者の運動をテーマに講演及びグループワークを

回の旅行会議を重ね、行きたい場所、美味しいものを探し移動計画が完成しています。

11月6日の当日は、スタッフも含め16人での車移動です。高速道路の渋滞を抜けるとすぐに明石海峡大橋と、キラキラと日差しを浴びた海が見えはじめ

急に気分が高揚してきます。淡路島は何と言っても淡路牛、海鮮、玉ねぎが推しです。淡路サービスエリアでの昼食はもちろん自由にチョイス。シラス丼、玉ねぎラーメン、淡路牛バーガーなどを堪能しています。海上を行きかう船と橋をバックに記念写真もたくさん撮りました。

さて、次の目的地は淡路島牧場です。早めに着いて乳しほり体験ができそうだと喜んでいましたが、まさかの臨時休業でした。早速、気分を切り替えて雨の日対策で検索していたコースのうずの丘大鳴門記念館へ向かいました。メンバーのひとりが玉ねぎ写真がラッピングされたストリートピアノを演奏。足を止めた観光客から拍手が聞かれました。海に面したテラスでは大鳴門橋と大鳴門海峡が広がり巨大な玉ねぎオブジェが設置されていて、撮影スポットとして人気の場所です。「玉ねぎかつら」があってみんな照れながらも順番に写真に収まることができました。

休暇村南淡路に到着すると早速、お風呂に向かう人、散策でお腹を減らしてから夕食を楽しむ人とこ



▲雄大！うず潮クルーズ

れまた自由です。ビュッフェはこの秋リニューアルされたばかりです。夕食、朝食共にバイキングなので新鮮なお刺身や目の前でグリルされたお肉、ミニ淡路バーガー、トロトロに柔らかく煮込まれたご当地玉ねぎなどなど、様々なお料理が選べます。何度も席を立ち、おかわりをして、心残りがないように食べ終わると、みんなお腹満腹で笑顔がこぼれました。

2日目は、うずしおクルーズ船と大塚国際美術館コースに分かれて出発しました。今日5日はスーパームーンで、この数日間は大潮が楽しめる時期とのこと。はじめは船底に詰め込まれて現地まで移動。「さあ上に上がってください！」の合図と共に船上で雄大なうずの流れを見ることができました。水しぶきを浴びながら、手すりにしがみつき、夢中で写真や動画を撮影しています。美術館組からはモナ・リザの微笑みやムンクの叫びの名画の前での記念写真がメールで届き、「これもいいなー」の声も聞かれました。

車の中で「あれ、カバンがない」の声。大きな旅行バックを休暇村にすっかり置き忘れるというハプニングもありましたが、帰り道に立ち寄り無事に受け取ることができました。新鮮なお刺身を手に入れるぞと張り切っていたメンバーも、道の駅で入手ができて帰宅後、美味しく食べることができたと聞きました。

雄大な自然の営みを感じ、好天気恵まれ、最高の旅となりました。もう次の旅先を検討する声が聞かれています。（松本）



▲日の出 美しいものです

ふぁーちぇは今

たむたむ荘で～す

「障害支援区分認定調査を始めました」
今年8月から奈良市より障害福祉サービスを利用するために必要な支援区分を決めるための調査業務の委託をNPO法人ふぁーちぇとして受け始めまし

た。

これはご自宅や作業所などへお伺いし、サービスが必要な度合いを明らかにするための聞き取りを普段の生活や住まいの環境、サービスの利用状況、また日常生活に関する移動や動作意思疎通など決められた80の項目の中で行うことです。